



第132号

(発行所)

真宗大谷派

松岡山 廣讚寺

中村区城屋敷町3-30

TEL (052) 411-5301

FAX (052) 411-5341

携帯 090-1568-4623

〈E-mail〉

matsuoka@kosanji.or.jp

### 名古屋の巨星

釋 綽智

一月十四日に梅原猛氏が亡くなったとニュースで知って驚いてしまった。四年ほど前に著された『親鸞 四つの謎を解く』を読んでいたのでも残念に思いつつ九十三歳まで生きてこられた。

四つの謎とは、出生、法然門下生、結婚、悪の自覚の四つで、これを既刊本を批判しつつ梅原氏独自のフールド（実習）によって実証的に論破しつつ新しい聖人像を記されたものです。実にすばらしい著書で学術書なのだと思う。聖人について少しきつい面もある



が、どこまでも聖人の人間像を解き明かそうと努力されたことが伝わってくる作品ではないか。おもしろくて一気に読んでしまった。

権威に反逆、

定説否定と中日

新聞に大きく報道されたのも東海中学から名古屋大学に進学された哲学者であるからでしょう。京都でも瀬戸内寂聴さんと仲良しで京都の奇重きちゅうな宝でロマンチストが亡くなったと報じている。

## かわいい子に旅

釋 綽智

名古屋教区二十組のご命日のつどいの新年会に参加する。いつもと少しずつ新顔がみえる。廣讚寺からも十人以上参加されていて心強かった。懇親会の前に名古屋教務所で駐在教導をされている岩田氏から法話をいただく。講題は「要」<sup>かなめ</sup>であった。パラオは日本から真話の中にうまくまとめられた。パラオは日本から真南約三千キロ北太平洋西南にある旧日本領であったところであるが今はアメリカに信託された独立国である。



パラオの空気はとてもきれいで空も真っ青ですごく明るいと

のこと。時間が静かにゆっくり流れて、日本と比較するととてもゆったりしている。日本に住んでいたという女性はパラオに住んで何年かたつが、もう日本には帰りたくないとのこと。駅の雑踏などが耐え切れないだとか。

パラオの人は笑顔で親しみよく話しかけてくる。島のせいかわ外敵をあまり感じないのかなと思う。しかしパラオのいたるところで戦争の爪痕が残っていることを紹介された。そして生活の中に宗教がしっかりと付いている。キリスト教徒で一日三回は家族そろって礼拝する。熱心な宗教者である。

最後に旅をしていて外から自分の国や自分自身を考えることの難しさと大切さを痛感されていた。一泊二日でのパラオの旅。目まぐるしい旅ですが、人生は旅です。そしてパラオの人の生活の中にある要になるのは宗教である、と締められた。

懇親会に入り一通り役員のあいさつが過ぎ乾杯をす

ると、がやがや、わいわいにぎやかな生活談義に花が咲いてあつという間に二時間の終了時となる。

### 心温まる葬儀

釋 綽智

先日、廣讚寺同朋会のご家族が亡くなったという訃報をいただいた。告別式が特に印象に残る。勤行のあとと住職と伴僧さんが会場を退出した。

そのあとしばらく会場は静まり誰も立つ人もいない。物音一つしない。この静けさはいったい何なのか。長い間合いについて私が立つとご遺族、ご親戚が立ちお棺のかたわらに行き献花をされた。その後私たちも献花をしました。

その時にお棺のふたの内側に張り付けてあつた書。そこには大きく南無阿弥陀仏と書かれその下に四十八願の第十八願が書かれていた。そこに思わず感動して



ご命日の集い新年懇親会

しまいました。今は亡き人の感謝の心のこもった贈り物でしょうかと感じながら念仏する。お浄土に還っていかれたのだな。

三月行事予定

三月九日(土) 七時 同朋委員会・総会

(役員は六時半)

十九日(火) 二時～ 学習会

【春季彼岸永代経・蓮如講 執行】

二十一日(祝) 十時 おつとめ

おとき 説教 前田健雄師

一時 おつとめ

二時 おかみそり

二十二日(金) 二時 おつとめ・法話

二十三日(土) 二時 おつとめ・法話

二十四日(日) 十時 女人講・報恩講

おつとめ・住職法話

おとき

二十八日(木) 十時 二十八日講・女人講

四月行事予定

四月四日(木) 二時～ 常任委員会

八日(月) 同朋会団体参拝 日帰り旅行

本山・銀閣寺

十三日(土) 七時半 同朋委員会・例会

(役員は七時)

十九日(金) 二時～ 学習会

二十八日(日) 十時 おみがき



東本願寺